

ヨハネ 10・黙想質問

「わたしは、門です。」ヨハネ 10:1-10

1 「まことに、まことに、あなたがたに告げます。羊の囲いに門から入らないで、ほかの所を乗り越えて来る者は、盗人で強盗です。2 しかし、門から入る者は、その羊の牧者です。

3 門番は彼のために開き、羊はその声を聞き分けます。彼は自分の羊をその名で呼んで連れ出します。

4 彼は、自分の羊をみな引き出すと、その先頭に立って行きます。すると羊は、彼の声を知っているのです、彼について行きます。

これらの節は羊と羊飼いについて何を教えているでしょうか？ 盗人や強盗とは誰のことでしょうか。

5 しかし、ほかの人には決してついて行きません。かえって、その人から逃げ出します。その人たちの声を知らないからです。」6 イエスはこのたとえを彼らにお話になったが、彼らは、イエスの話されたことが何のことかよくわからなかった。

イエスは羊と見知らぬ人について何と言いましたか？ パリサイ派の人々がイエスの言葉を理解できなかった理由は何だと思えますか。

7 そこで、イエスはまた言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしは羊の門です。8 わたしの前に来た者はみな、盗人で強盗です。羊は彼の言うことを聞かなかったのです。9 わたしは門です。だれでも、わたしを通過して入るなら、救われます。また安らかに出入りし、牧草を見つけます。

イエスが「私が門である」と言ったのはどういう意味でしょうか。

10 盗人が来るのは、ただ盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするだけのためです。わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです。

「私が来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです」というイエスの言葉は、どういう意味ですか。

「わたしは、良い羊飼いです。」ヨハネ 10:11-21

11 わたしは、良い牧者です。良い牧者は羊のためにいのちを捨てます。

イエスは、良い羊飼いでについて何を教えたでしょうか。

12 牧者でなく、また、羊の所有者でない雇い人は、狼が来るのを見ると、羊を置き去りにして、逃げて行きます。それで狼は羊を奪い、また散らすのです。13 それは、彼が雇い人であっても、羊のことを心にかけていないからです。

イエスは、盗人や雇い人について何を教えていますか。

14 わたしは良い牧者です。わたしはわたしのものを知っています。また、わたしのものは、わたしを知っています。15 それは、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同様です。また、わたしは羊のためにわたしのいのちを捨てます。

イエスは、良き羊飼いと羊の関係について何を教えているのでしょうか。

16 わたしにはまた、この囲いに属さないほかの羊があります。わたしはそれをも導かなければなりません。彼らはわたしの声に聞き従い、一つの群れ、ひとりの牧者となるのです。

イエスは、ご自分の他の羊について何と言っていますか。彼らは誰なのでしょう。

17 わたしが自分のいのちを再び得るために自分のいのちを捨てるからこそ、父はわたしを愛してください。18 だれも、わたしからいのちを取った者はいません。わたしが自分からいのちを捨てるのです。わたしは、それを捨てる権威があり、それをもう一度得る権威があります。わたしはこの命令をわたしの父から受けたのです。」

イエスは、良い羊飼いと御父について何を教えましたか。

19 このみことばを聞いて、ユダヤ人たちの間にまた分裂が起こった。20 彼らのうちの多くの者が言った。「あれは悪霊につかれて気が狂っている。どうしてあなたがたは、あの人の言うことに耳を貸すのか。」21 ほかの者は言った。「これは悪霊につかれた人のことばではない。悪霊がどうして盲人の目をあけることができるのか。」

「あなたはメシアなのか。」 ヨハネ 10:22-30

22 そのころ、エルサレムで、宮きよめの祭りがあった。23 時は冬であった。イエスは、宮の中で、ソロモンの廊を歩いておられた。24 それえユダヤ人たちは、イエスを取り囲んで言った。「あなたは、いつまで私たちに気をもませるのですか。もしあなたがキリストなら、はっきりとそう言ってください。」

なぜユダヤ教の指導者たちは「もしあなたがメシア（キリスト）であるなら、はっきりとそう言え」と要求しましたか。

25 イエスは彼らに答えられた。「わたしは話しました。しかし、あなたがたは信じないのです。わたしが父の御名において行うわざが、わたしについて証言しています。26 しかし、あなたがたは信じません。それは、あなたがたがわたしの羊に属していないからです。

なぜ、神の羊ではない人々は、イエスを理解したり信じたりすることができないのでしょうか。

27 わたしの羊はわたしの声を聞き分けます。またわたしは彼らを知っています。そして彼らはわたしについて来ます。

27 節によると、イエスの羊はどのようにして識別できるのでしょうか。

羊がイエスを知らず、その声を聞かず、従わないのであれば、それは本当にイエスの羊なのでしょうか。

28 わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。29 わたしに彼らをお与えになった父は、すべてにまさって偉大です。だれもわたしの父の御手から彼らを奪い去ることはできません。

イエスの羊が羊飼いかから受ける祝福と恩恵をリストアップしてください。

これらの聖句で、イエスは御父との関係について何を語っているのでしょうか。

もしあなたがイエスと御父の御手に委ねられているなら、あなたの永遠の未来はどれほど安全で確かなものなのでしょうか。

「わたしと父とは一つです。」ヨハネ 10:30-42

30 「わたしと父とは一つです。」

31 ユダヤ人たちは、イエスを石打ちにしようとして、また石を取り上げた。32 イエスは彼らに答えられた。「わたしは、父から出た多くの良いわざを、あなたがたに示しました。そのうちのどのわざのために、わたしを石打ちにしようとするのですか。」

33 ユダヤ人たちはイエスに答えた。「良いわざのためにあなたを石打ちにするのではありません。冒涇のためです。あなたは人間でありながら、自分を神とするからです。」

イエスが「私と私の父は一つである」と言ったのはどういう意味でしょうか

34 イエスは彼らに答えられた。「あなたがたの律法に、『わたしは言った、おまえたちは神々である』と書いてはないか。35 もし、神のこゝばを受けた人々を、神々と呼んだとすれば、聖書は破棄されるものではないから、36 『わたしは神の子である』とわたしが言ったからといって、どうしてあなたがたは、父が、聖であることを示して世に遣わした者について、『神を冒涇している』と言うのですか。

なぜイエスは、ご自分が「神の子」とであると主張することを正当化するために、旧約聖書を引用したのでしょうか。

37 もしわたしが、わたしの父のみわざを行っていないのなら、わたしを信じないでいなさい。38 しかし、もし行っているなら、たとえわたしの言うことが信じられなくても、わざを信用しなさい。それは、父がわたしにおられ、わたしが父にいることを、あなたがたが悟り、また知るためです。」39 そこで、彼らはまたイエスを捕らえようとした。しかし、イエスは彼らの手からのがれられた。

37-39 節で、イエスはユダヤ人に対して実際に何と言っていたのでしょうか。

40 そして、イエスはまたヨルダンを渡って、ヨハネが初めにバプテスマを授けていた所に行かれ、そこに滞在された。41 多くの人々がイエスのところに来た。彼らは、「ヨハネは何一つしるしを行わなかったけれども、彼がこの方について話したことはみな真実であった」と言った。42 そして、その地方で多くの人々がイエスを信じた。

あなたは、イエスが神の子であり、世界の救世主であると信じていますか。